

2018年度（平成30年度）普通会計決算見込み

「概況」

2018年度（平成30年度）は、甚大な被害をもたらした7月豪雨により被災した市民の生活再建に向けた支援や被災施設等の復旧事業に着実に取り組むとともに、再度災害防止に向けた抜本的な浸水対策に着手しました。

また、活力と魅力に満ちた輝く都市の実現に向けて、福山駅前のにぎわい創出に向けた実践や、戦略的な観光振興など「5つの挑戦」を加速させる中で、福山北産業団地第2期事業や福山城築城400年記念事業の推進、ばらのまち福山国際音楽祭の開催、備後圏域のスポーツの拠点施設となる新総合体育館の整備など、未来づくりへの取組と持続可能な財政運営の両立に努めました。

2018年度（平成30年度）決算は、前年度と比べ、歳入は約29億円（1.7%）、歳出は約10億円（0.6%）の増加となりました。

歳入では、基幹となる市税が全体では約736億円と前年度を約1.4億円下回りました。主な内訳として、個人市民税が個人所得の伸びに伴い約2.2億円増加したものの、土地・家屋の評価替えに伴い固定資産税が約2.5億円、企業収益の減等により法人市民税が約1.1億円減少したことによるものです。

また、市債が臨時財政対策債の増などから約16億円、繰入金が財政調整基金繰入金などにより約13億円増加しました。

歳出では、災害復旧費など投資的経費が増加したほか、障がい福祉サービス事業費や保険会計への繰出金などの社会保障関係費が引き続き増加しました。

「決算規模等」

（単位：千円 %）

区 分	平成30年度	平成29年度	増減額	増減率
歳 入 総 額	173,533,121	170,655,067	2,878,054	1.7
歳 出 総 額	165,925,591	164,878,036	1,047,555	0.6
歳入歳出差引額	7,607,530	5,777,031	1,830,499	31.7
翌年度へ繰り越すべき財源	6,821,003	1,996,075	4,824,928	241.7
実 質 収 支	786,527	3,780,956	△ 2,994,429	△ 79.2

※ 実質収支は、歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を引いたもの。

※ 基金繰入金等の特定財源を翌年度に繰り越した場合、普通会計決算では、統計上、一般財源として翌年度へ繰り越すべき財源に加算調整することとされている。

（参考）翌年度へ繰り越すべき財源から基金繰入金等相当額を控除した場合

区 分	平成30年度	平成29年度	増減額	増減率
翌年度へ繰り越すべき財源	4,649,634	1,962,832	2,686,802	136.9
実 質 収 支	2,957,896	3,814,199	△ 856,303	△ 22.5